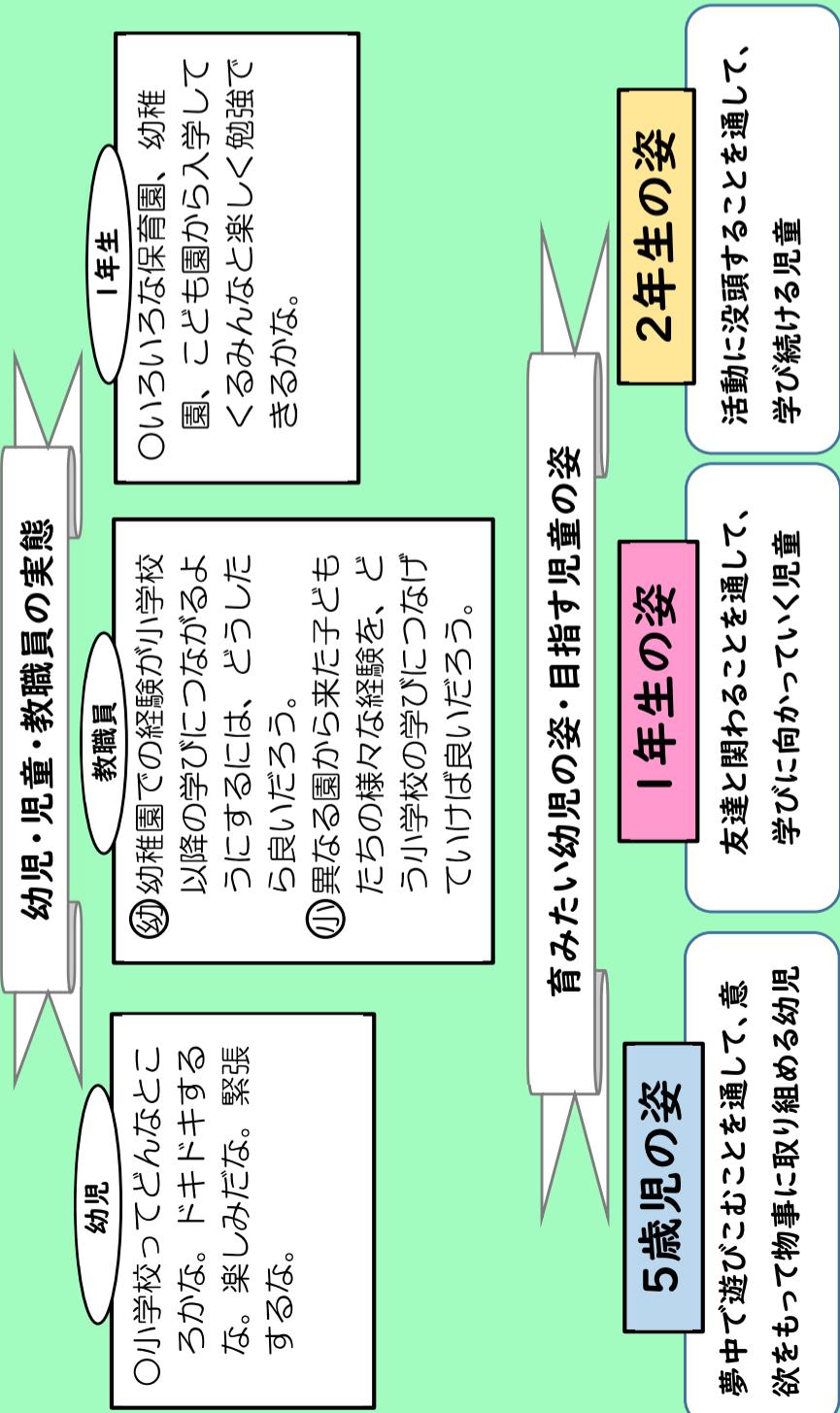


○研究の概要



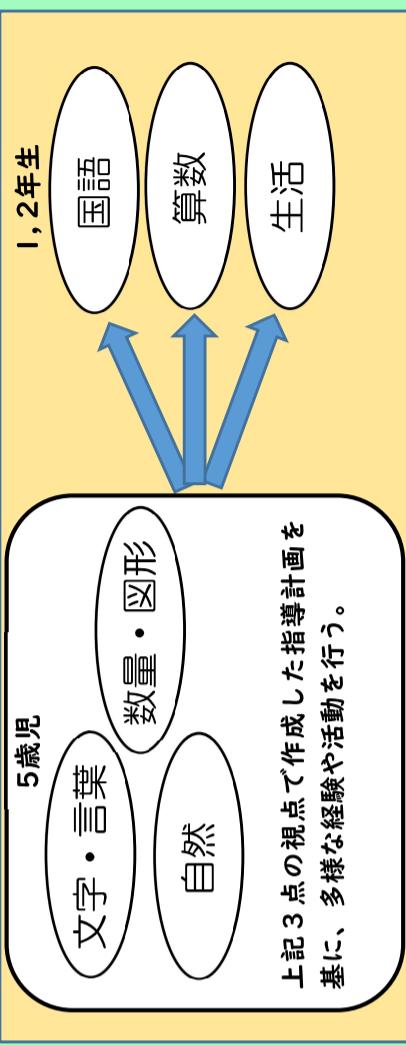
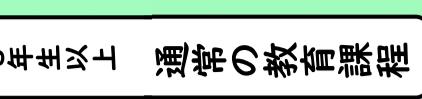
○「ながはけラボ」の環境について

幼小の円滑な接続を図るために一つとして、第七峠小学校の校舎内に「ななはけラボ」を設置している。児童や児童が様々な場面でこの部屋を活用していくことを通して、教育効果をさらに高めることをねらっている。年間を通して幼小の教職員が話し合い、その時期や活動内容に適した環境づくりに努めている。児童と児童の活動が双方に働き掛け合うことで、それぞれの遊びや学びがより多方面に広がってきた。児童にとっては安心して自己を発揮し小学校への親しみをもつ場となり、児童にとつては一層の学習効果が発揮できている。



○「5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画」について

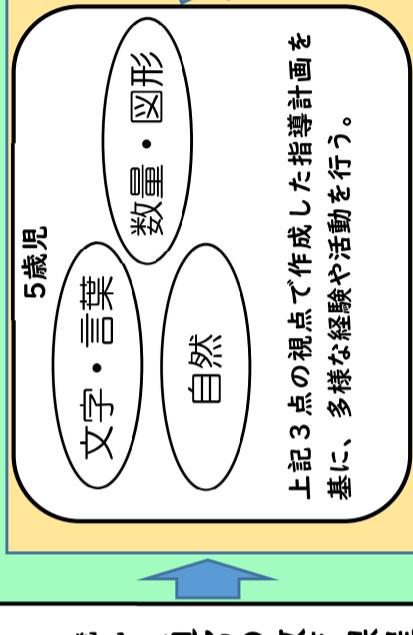
本研究において、5歳児の指導計画は、小学校の教科學習における「国語」「算数」「生活」へのつながりが分かりやすいと考えられる「文字・言葉」「数量・図形」「自然」の視点で作成している。幼小の教職員が、幼児教育と小学校教育のつながりを意識して指導することで、児童の主体的な学びを引き出せると捉えている。



上記3点の視点で作成した指導計画を基に、多様な経験や活動を行う。



5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画



3～4歳児 通常の教育課程

○就学前施設における経験や活動を見直したり、小学校での学習にそれらの経験や活動を生かしたりすることで、児童・児童の主体的な学びを引き出すことができるだろう。



研究の仮説

夢中で遊びこむことを通して、意欲をもって物事に取り組める幼児

- 環境を工夫することで、自分から環境に関わり、課題を見付け、解決しようとする幼児・児童が育つだろう。
- 就学前施設における経験や活動を見直したり、小学校での学習にそれらの経験や活動を生かしたりすることで、幼児・児童の主体的な学びを引き出すことができるだろう。



- 幼稚園と小学校の合同研究組織による研修会等の実施
- 「5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉

- 小学校施設内に設置した「ななはけラボ」の活用計画の実践と検証
- 幼児・児童の双方にとって効果的だと考えられる交流活動の通年実施